

意見交換会概要

日時	平成25年 7月 20日 (土) 9 : 00 ~ 11 : 00
場所	鹿野町総合福祉センター
参加者数	約40人
出席者	校区審議室(神谷、小谷、清水)、竹内地域家庭教育係長、中川支所長、米田副支所長ほか

発言者	主な意見、質問等
参加者 A	学校はそれぞれ単独で残して欲しい。増築の必要も無いし将来的には小中一貫校でもいい。役場、銀行、スーパーがあり、学校があって町は形成されていくもの。スーパーが1軒無くなっても寂しい思いをしているのに、学校が無くなるというなら尚更だ。まちづくりの視点からいっても残して欲しい。生徒数が減少し、学校としての体裁をなさないなら仕方ないが、現時点ではまだ学校として通用する。
参加者 B	私は、先日、小中一貫校を見学した。周りからは何故、平日の昼間に実施したのかという人も多い。参加は年寄りばかり、保護者の方に聞いたら、参加したかったが仕事の都合で参加出来なかった人が多かったみたいだ。小中一貫校の様子は、年寄りより保護者に見せるべき。また、上級生が下級生に水泳を教えるプール学習など素晴らしく感じたが、いいところだけ見せてもらった感じもする。先生も努力されていることもよく分かる。同級生間のイジメは無いとの話であったが、一貫校となると上級生が下級生に対してのイジメがあるのでは、上級生は先生にばれないようイジメを働くのではないかという心配もある。しかし、子ども達の顔が優しかったのが印象的だった。小中一貫校は湖南学園では成功したが、鹿野ではどうなるのか心配でもある。小中一貫校は県内にもまだあるので、いろんなところを勉強して検討していただきたい。
参加者 C	湖南学園の見学会に参加した。教室には1学年11人位のクラスであって、先生の目も行き届く規模で、改めて小規模の良さを実感したところである。私は小中一貫校にしないでも、鹿野でこの教育を運用できるのではないかと考えている。実際、小学生用プールで中学生が水泳するのを見て思ったが、小学生と中学生では規格が違い、既存の校舎にあてはめることは、生徒に不便や負担を強いることになる。新設する校舎なら問題ないのだろうが、既存の校舎を利用するとなると問題となる。校内に足湯があり、学校と地域とが密着していることが想像出来た。鹿野でも子どもは住民に対して挨拶するなど地域との結びつきが強い。鹿野では地域で子どもを守るという意識も強い。私は現状維持が強いと思う。
参加者 D	将来に渡り単独校として残して欲しい。今、子どもが地域の人に挨拶してくれる。爽やかでいいなあと感じている。それが統合となりスクールバス通学となると、地域から子どもが消え、声も聞けなくなり寂しい思いをすることは確か。小規模なら小規模校として単独で残して欲しい。私の孫は湖南学園に通学しているが、孫から聞く話では「お兄ちゃん、お姉ちゃんと一緒にすることが楽しい」と、上級生との交流により人間関係が広がっているようである。小中一貫校は良い面、悪い面あるが子どものことを考えていただいて決めて欲しい。単独校でお願いしたい。
参加者 E	統合は反対です。国なり県なり市なり、行政は地域ぐるみで・・・との発言が多いのに、中学校を統合し地域から無くすという。鹿野、気高、青谷の町名を無くして新たな名称を付け3つの総合支所を1つにするような案に、住民は納得出来ると思うのか。地域のイベントについても3町のイベントを統合することも許されない。住民は認めることが出来ないことだが、大人が嫌なことを子どもに押し付けることは認められない。出来れば単独校として残して欲しい。

意見交換会概要

発言者	主な意見、質問等
参加者 F	<p>(小鷲河に住んでいて) 最近、切実に感じている。小鷲河小学校が無くなって思うことは、学校が無くなるということは土地に見切りをつけることだと強く感じている。近所、地域の若い人が出て行った現実がある。これは利便性と地域の愛着のどちらを重視しているかということになる。中学校が統合されると、学校と家を往復するだけとなり、地域との関係が強くないし、地域の愛着も湧いてこない。小中学校の時期というのは大事な時期、中学校が無くなると鹿野の愛着も無くなり、ひいては鹿野の将来が無くなることに繋がる。鹿野だけでなく青谷においても残すべき。生徒数が少ないなりのメリットはあると思うので、中学校を残す方向で考えて欲しい。</p>
参加者 B	<p>8年前からこういう問題が起きると市長さんにお話ししている。山陰本線の北側、南側での校区割りをすべきだと。浜村周辺は今後、人口は増えていくだろうし、南側については過去を見ても気高の奥の人は鹿野に通っていた経緯もある。校区割りの提案をさせていただいた。しかし、8年間ほっておいて今になって学校のあり方を考えるという。市長も市長だし、教育委員会、あんなたちは何やってきたのか。西部地区に限らず鳥取市全域の学校教育、校区再編をスピーディに行うべき。要望ですのでよろしくお願いします。</p>
参加者 G	<p>鹿野に関して言えば小中単独校として残して欲しい。湖南学園の小中一貫校という形もあるだろうが、今でも鹿野では、ほぼ同じような教育が出来ていると感じる。地域の住民が子どもを育てていこうという気運が鹿野町にはあるので、子ども達も地域から見守られているという意識は高いと思う。いずれ鹿野に住む子ども達は、高校になったら西か東に汽車に乗って通うことになる。人格形成される15歳までは責任を持って地域で育てたい。理念にある「ふるさとを思い」は、まさに鹿野の子。小学校、中学校を残して欲しい。</p>
参加者 H	<p>見学会には行けなかったが、小中一貫校の様子を聞くと、低学年がお兄さんやお姉さんに丁寧に教えてもらったり、高学年は低学年の弟妹たちをいたわる気持ちが身に着くといったメリットを聞く。一方、当事者である保護者の皆さんは、小規模だと切磋琢磨が出来ないので大規模校に通わせたい、部活でもいろいろ選ばせたいと言われる。自分として思うことは、一貫校になると低学年はいいが、いわば中学生である高学年はひ弱な優しすぎる子どもになるのでないか、同世代に比べて遅しく育つことが出来ないのではと感じる。大規模校を勧めるわけではないが。</p>
参加者 H	<p>竹内先生の話に感銘を受け、是非、竹内先生の話聞く会を持ちたいと考えていたが、校区審議会を傍聴したところ竹内先生のおっしゃる話と食い違っていた。地域との繋がりや地域で子どもを育てていく意識が重要とのことであったが、校区審議会では小学生は地域との繋がりが大事だけれども、中学生は横の交わりを重視した議論でびっくりした。校区審議会の委員は教育の専門家はほとんどいない。専門家でない人が机上の議論に終始し、中学校1年の子どもが青谷の奥から時間を掛けて毎日通学する負担面など気にかける方はおらず、残念な思いであった。そういう実感に欠けている人たちが論議している。もっともっと、私たちが意見を出していかないといけないなと思いました。</p>
参加者 I	<p>支所長にお願いしたい。こういう議論は、理解は深められても結論はなかなか出るものではない。賛成あり反対ありで。個人的には、A：単独、B：統合、C：小中一貫校、D：分からないという形のアンケート実施を提案したい。支所から全戸配布の文書も月1回出ているので利用してみてもどうか。そのアンケートの結果が結論というわけではなく、参考として議論を深めることが出来ると思う。今日の参加者の雰囲気は、単独校として存続を希望する声が多い。今の鹿野の雰囲気はまさにそのとおりだと思う。先ほど地域で検討する組織を作りなさいとの話があったが、議論するにしても、町の方向性をつかむことは大切なことである。ぜひ、多くの意見を吸い上げたアンケートを実施していただきたい。数字で実態把握をして欲しい。</p>

意見交換会概要

発言者	主な意見、質問等
参加者 B	以前に一度提案したが、鹿野なら鹿野、気高なら気高といった地域に分かれた意見交換会は数多くしているようだが、3町合同でのフォーラムを教育長参加で開催して見てはどうか。提案してから随分経つがそのあたりの経過を説明して欲しい。3町住民が生の声聞くことはいいこと。同じ状況、同じ雰囲気の中で新たな方法も思いつくはずだ。
参加者 B	青谷中学校の耐震化が必要だとの声大きい。庁舎問題の説明会の際にも私は発言した。市庁舎の耐震化には取り組むが、中学校の耐震化をおろそかにしているのではないか。子ども達の安心安全を考えた時、市庁舎より学校の耐震化を優先すべきだと。市長は学校の耐震化は前倒しで取り組むと言っていたが、何が前倒した。いまだに決着も付いていない。事業の優先順位も分からない。しっかりした協議をお願いしたい。